

2. 鉄道車両

1 2 3

(1) 車いすスペースの確保

◆新造車両は、1列車に1箇所以上設置。既存車両は、可能な限り設置に努める



提供：西日本旅客鉄道株式会社



提供：大阪市高速電気軌道株式会社



提供：近畿日本鉄道株式会社



提供：京阪電気鉄道株式会社



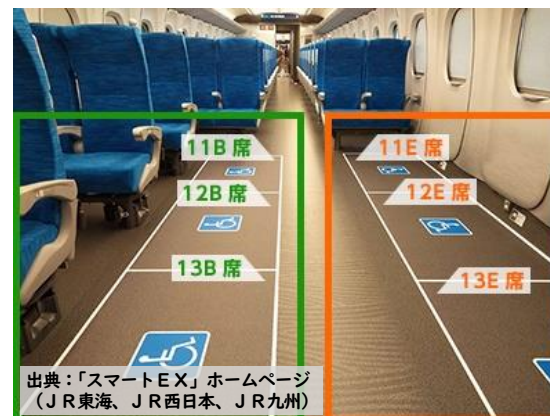
提供：南海電気鉄道株式会社



提供：阪急電鉄株式会社



提供：阪神電気鉄道株式会社



出典：「スマートEX」ホームページ
(JR東海、JR西日本、JR九州)

左1段目写真：JR西日本
左2段目写真：近鉄
左3段目写真：南海
左4段目写真：阪神

右1段目写真：大阪メトロ
右2段目写真：京阪
右3段目写真：阪急
右4段目写真：JR東海

2. 鉄道車両

1 2 3

(2) 行先等の案内表示装置

◆新造車両は、車外から行先、種別が、車内から行先、種別、次停車駅名がわかる表示装置を設置

〈車外〉列車種別・行先（多言語表記）



提供：京阪電気鉄道株式会社



提供：阪神電気鉄道株式会社

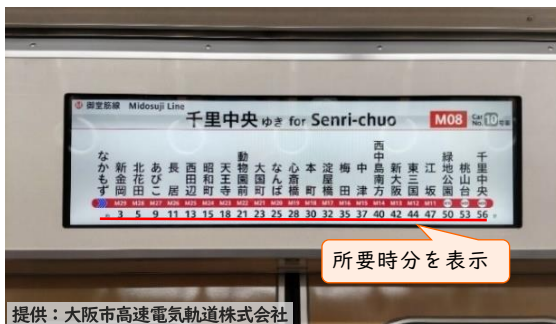
〈車内〉号車番号・行先・次停車駅・駅番号・路線図



提供：西日本旅客鉄道株式会社



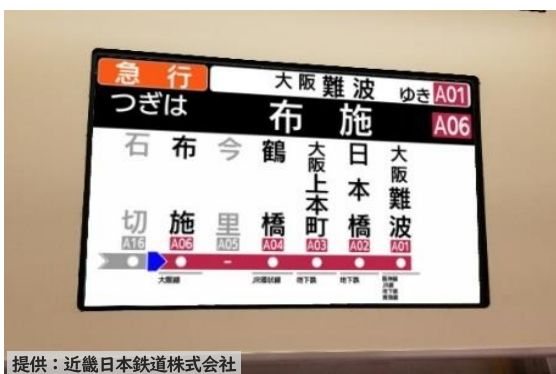
提供：西日本旅客鉄道株式会社



提供：大阪市高速電気軌道株式会社



提供：大阪市高速電気軌道株式会社



提供：近畿日本鉄道株式会社

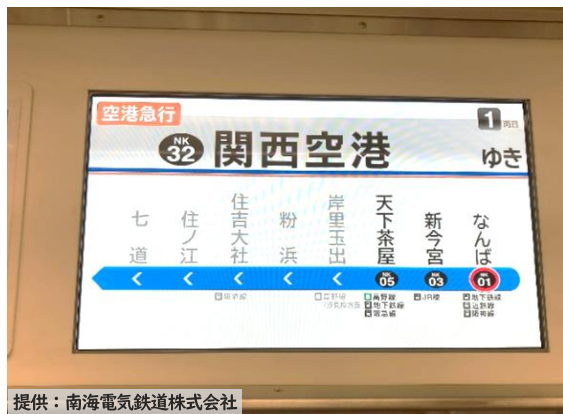


提供：京阪電気鉄道株式会社

乗り換え案内を多言語で表示

左1段目写真：京阪
左2段目写真：JR西日本
左3段目写真：大阪メトロ
左4段目写真：近鉄

右1段目写真：阪神
右2段目写真：JR西日本
右3段目写真：大阪メトロ
右4段目写真：京阪

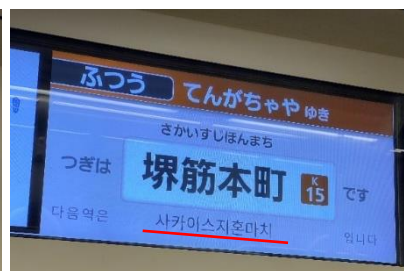
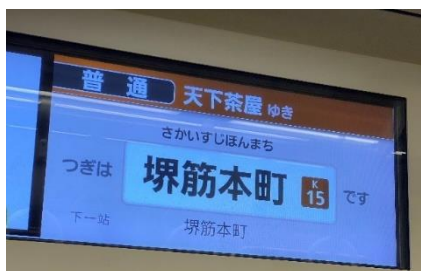


提供：南海電気鉄道株式会社

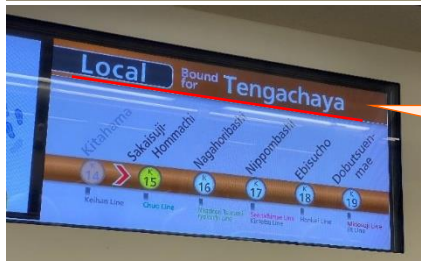
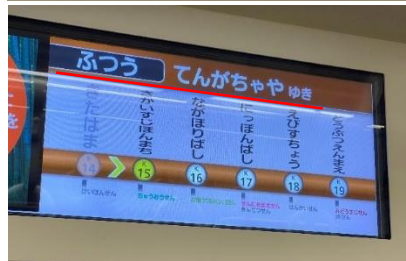


提供：阪急電鉄株式会社

到着駅ホームの垂直移動設備や
トイレの位置を表示



提供：阪急電鉄株式会社



行き先、種別、次停車駅等を漢
字・ひらがな・英語・ハングル
文字等により表示



提供：阪神電気鉄道株式会社

左1段目写真：南海
左2段目写真：阪急
左3段目写真：阪急
左4段目写真：阪急
左5段目写真：阪神

右1段目写真：南海
中3段目写真：阪急
中4段目写真：阪急

右3段目写真：阪急

2. 鉄道車両

1 2 3

(3) 車両間の転落防止装置

◆新造車両は、設置。既存車両は、可能な限り設置に努める



左上写真：JR西日本
左中写真：近鉄
左下写真：南海

右上写真：大阪メトロ
右中写真：京阪
右下写真：阪神

3. 道路・交差点

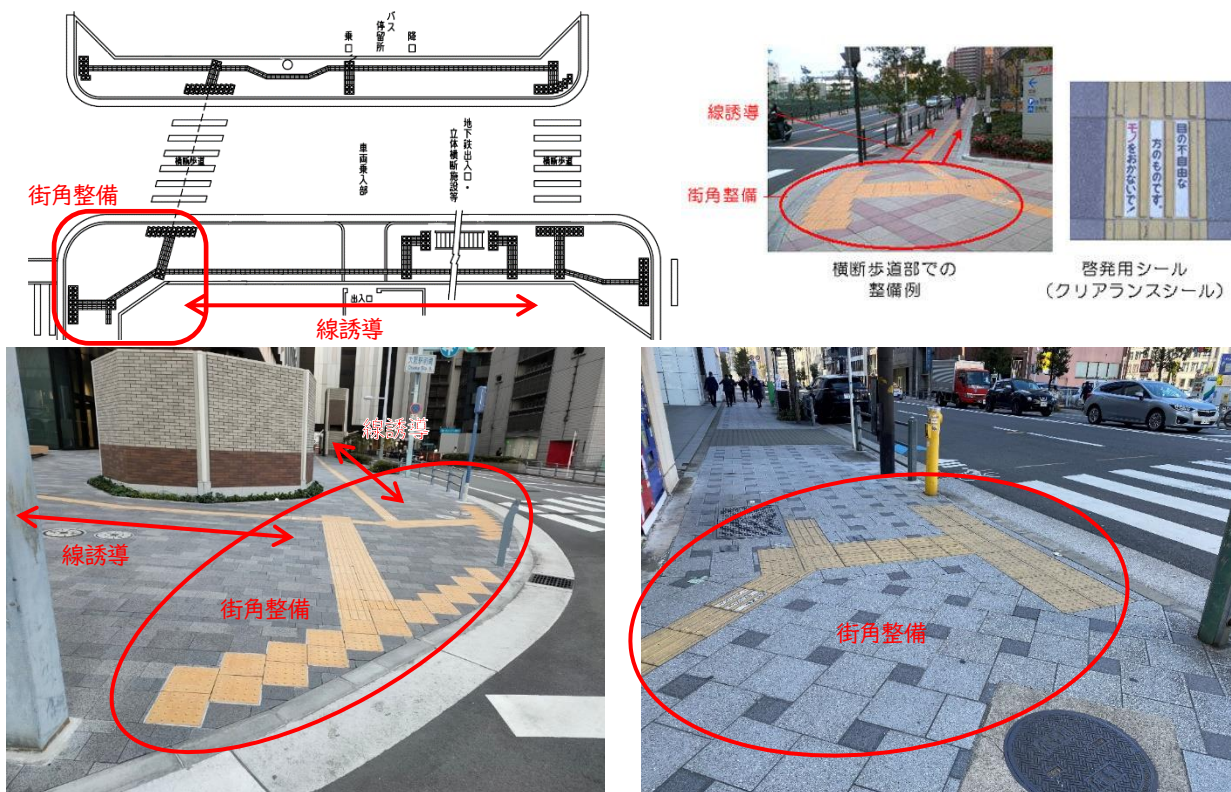
1 2 3

(1) 視覚障がい者誘導用ブロックの敷設等

◆視覚障がい者誘導用ブロックの設置

視覚障がい者誘導用ブロックは、視覚障がい者が施設の位置や方向、危険箇所などを知る道しるべです。駅から病院などの公共施設間を結ぶ経路などに設置しています。

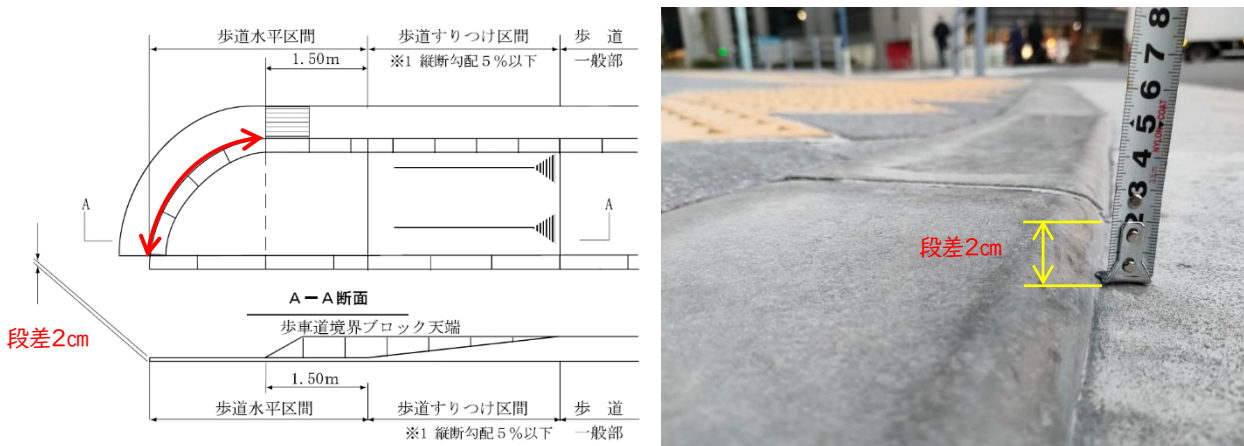
視覚障がい者誘導用ブロックの整備手法としては、線状ブロックを並べて施設まで誘導するものと、歩道の街角部などにおいて点状ブロックを用いて注意を促すものがあります。



◆段差や勾配の改善

歩道に大きな段差や急な勾配があると、転倒の原因となります。

そのような箇所については、段差を解消し、また勾配も緩やかに修正することにより、誰もが安心して歩くことができるみちへと改善します。なお、横断歩道に接する歩道等の部分は車いす使用者が困難なく通行でき、かつ、視覚障がい者が歩車道境界部を容易に認知できるように、2cmの段差を標準としています。

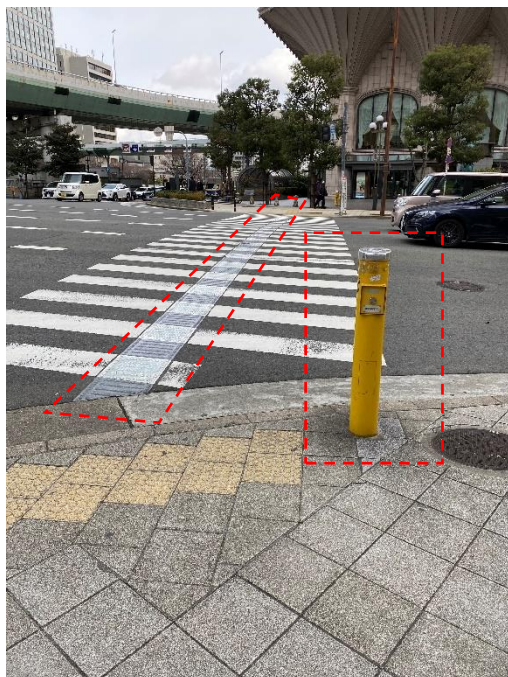


3. 道路・交差点

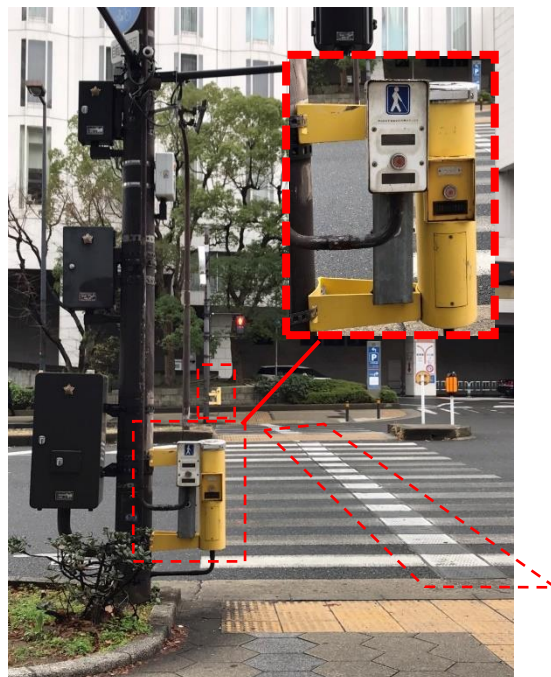
1 2 3

(2) 既設信号機への音響信号機（視覚障がい者用付加装置、音響式歩行者誘導付加装置等）

(3) 視覚障がい者用道路横断帯（エスコートゾーン）



左写真: 肥後橋交差点（淀屋橋地区）



右写真: 上本町6東大阪交差点（上本町・谷町九丁目地区）

<音響信号機（高齢者・障がい者等向けの信号機）>

視覚障がい者の方も安心して横断歩道を渡るため、歩行者用信号機が「青」になったことを、メロディーや鳥の声などの「音」で知らせる信号機を「音響信号機」という。

<視覚障がい者用道路横断帯（エスコートゾーン）>

横断歩道上は、視覚障がい者にとって手がかりが少ないため、まっすぐ歩くことが容易ではない。道路を横断する視覚障がい者の安全性及び利便性を向上させるために横断歩道上に設置され、視覚障がい者が横断時に横断方向の手がかりとする突起体の列を「エスコートゾーン」という。

エスコートゾーンの整備の際には、歩道部の視覚障がい者誘導用ブロックとの連続性の確保等が必要である。